

最高の音色で町民を魅了！
オーケストラによるコンサート



第14回つべつ日本フィルセミナーコンサートと第23回日フィル子ども芸術の広場が、8月30日に中央公民館で開かれました。今回行われたたセミナー講習会には道内外から62人もの受講生がプロの指導を受けました。

第1部では、セミナーを受けた津別中学校吹奏楽部員19人とコントラバス講師1人の特別参加による演奏でヨハン・シュトラウス作曲の『ラデッキー行進曲』と福島弘和作曲の『春に寄せて』の2曲を披露しました。続いて日本フィルメンバーとセミナー受講者でブラームス作曲の『大学祝典』序曲』を演奏。第2部も同メンバーでドヴォルザーク作曲の『交響曲第8番』（全楽章）を披露し、会場を訪れた町民たちを魅了しました。

津別高校1年による野外活動
総合農業体験が行われました

9月14日、午後1時から高台の棚とうとう農場（代表取締役 堂藤 優）において、北海道津別高等学校1年生、54人が参加し総合農業体験が行われました。

5月に作付けされ、120日近くが経過した農場において「ジャガイモ（男しやく）」の収穫が行われました。その後、「枝豆」の収穫体験も行われました。今年、雨が多く、冷夏の傾向にあり、収量が心配されましたが、高台地区はあまり影響が出ていないようです。

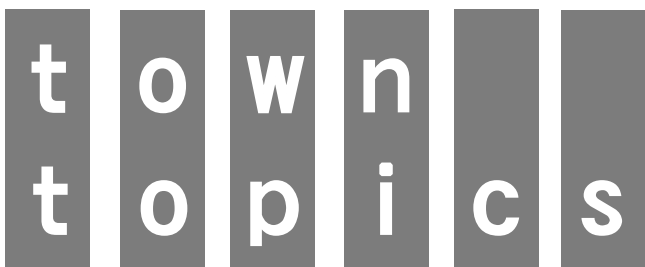


「家畜の碑」を移転
家畜の供養を執り行う

9月3日、津別町農業協同組合（山下邦昭組合長）の主催で、活汲の観音堂の横にある「家畜の碑」において、関係者、世話人の方16人が参列して、重要な役割を果たしてきた亡き家畜に、全員が焼香を捧げ供養が行われました。



この家畜の碑は、活汲地区の世話人の方たちが管理してきましたが、今年から津別町農業協同組合が管理し、活汲事業所の敷地内に移転が予定されています。この場所での家畜の供養は、今回が最後となります。



まちのわだい

全国の実力を肌で感じた
トランポリンクラブ全国大会結果報告

8月31日、津別トランポリンクラブ（黒田渉代表）の笹本陸さん（津小6年）と近藤柊馬さん（津高3年）がそれぞれ全国大会の結果の報告に来行しました。笹本さんは、7月23日から26日まで石川県金沢市で開催された第37回全日本ジュニアトランポリン競技選手権大会の個人競技部門で全国12位の成績を納めたことを報告。7月31日から8月2日まで埼玉県越谷市で、行われた第34回全国高等学校トランポリン競技選手権大会に出場した近藤さんとシンクロナイズドでペアを組んでいる佐々木大樹くんは惜しくも予選敗退となりましたが、北海道予選で道代表に選出された時の賞状を持って、全国選手たちの実力の高さについて報告に訪れました。



9月12日、津別町教育委員会（社会教育課）と津別町農業協同組合（山下邦昭組合長）の共催で、「アソビバー！つべつ」のジャガイモと枝豆の収穫体験が行われ、町内の小学生13人が参加しました。双葉の（尙すばる）（山下邦昭代表）の恩根の農場で男しゃくいもの収穫が行われ、子供たちは袋に入りきらないほど夢中になってジャガイモを掘り起こしていました。ジャガイモ収穫後、豊永の（尙仲田農場）に（仲田實代表）移動して枝豆の収穫を体験。地中深くまで根が張った茎を抜き、丁寧に袋に詰めて家庭に持ち帰りました。



アソビバー！つべつ
農作業体験、収穫の秋です

一度に250人分の食事を調理
炊事車の実演と試食を実施



9月12日、豊永のさくら公園で陸上自衛隊美幌駐屯地の炊事車の実演と食事の配給が行われました。美幌駐屯地第6普通科連帯の隊員10人が炊事車で250人分のご飯を炊き上げ、大きな釜でカレーと豚汁を用意しました。この日は、隣のパークゴルフ場で丸玉産業OB会による親睦大会が行われていたこともあり、プレーを終えた人々や自炊車の実演を見に訪れた家族連れなど約200人が集まり、列になって次々と出来たての食事をおいしそうに味わっていました。

9月2日から6日までの5日間、手作りカヌー体験（地域再生プロジェクト推進協議会主催）と進水式が行われました。今回はカナディアンカヌーと呼ばれる北アメリカが起源のカヌーを2日から5日までで作製。幅2センチ、厚さ5ミリに切断されたトドマツの板をボンドを使って張り合わせ、表面にFRP（繊維強化プラスチック）を塗装し完成。

6日にはチミケツプ湖で進水式が行われ、参加した関係者らが2人ずつ交代で、手作りカヌーの乗り心地を味わいました。できたカヌーは社会教育課に寄附され、今後の事業に使用されるそうです。



体験型観光で手作りカヌー
チミケツプ湖で進水式

楽しいゲームに笑顔いっぱい
プールまつりと記録会が開催



温水プール「すいむ」で水泳記録会とプールまつり（津別水泳協会主催）が行われ、町内の小学生約70人が参加しました。

記録会では、自分の力に応じて15メートルと25メートルの自由形で、それぞれの記録更新を目指し懸命に泳いでいました。記録会終了後にはプールまつりが行われ、水中玉入れや1メートル四方のピット板に何人乗ることが出来るか競う浮島登りなど4種類のゲームが行われ、バランスを崩し勢いよくプールに落ちるグループがあると大きな歓声があがり、プールサイドでは笑顔でいっぱいでした。